

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第 35 回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録

1. 日時 2016年2月2日(月) 13:30~15:30

2. 場所: 日本原子力発電(株) 本店2階 第4会議室

3.

-出席委員: 岡本主査、松原副主査、田中幹事、石倉、石原、岩田、梶谷、黒川、小山、篠田、立花、田村、鳥居、深田、松嶋、見上、三橋、湊(18名)

-常時参加者: 今川、工藤、佐藤、高田、堀川、水越、

-聴講者: 天野、石谷、上野、北山、杉村、高橋

-欠席委員: 杉山、高田、丹沢、西田、山口

4. 配布資料

R3SC - 35-1 人事案件

R3SC - 35-2 (社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第34回廃止措置分科会(R3SC)議事録(案)

R3SC - 35-3-(1) 廃止措置計画標準改定及び安全評価標準作成の考え方

R3SC - 35-3-(2) 安全評価要求事項の整理 (IAEA要求事項)

R3SC - 35-4 日本原子力学会 2016年春の年会 発表について
「廃止措置安全評価の標準化」

5. 議事

(1) 出席者/資料確認

① 委員18名が出席しており、定数を満たしていることを確認した。

② 配布資料について確認した。

(2) 【審議】人事案件

① 新委員の選任

次の1名が新委員として推薦され、投票により選任された。

黒川 登 三菱重工業

② 委員の退任

次の5名の委員の退任が報告された。

藤本 博之 三菱重工業

(3) 【審議】前回議事録確認

配布資料 R3SC - 35-2 により前回議事録の確認を行った。コメント等はなく、承認された。

(4) 【審議】廃止措置計画標準改定及び安全評価標準作成の考え方

「安全評価要求事項の整理 (IAEA要求事項)」

説明者 NEL 堀川氏より廃止措置計画標準改定及び安全評価標準作成の考え方及び安全評価要求事項の整理 (IAEA要求事項) の概要について紹介があった後、説明者 NEL 水越氏より、

R3SC-35-3(1)によって、廃止措置計画標準改定及び安全評価標準作成の考え方の説明及びIAEAの安全要件の説明があった。また、R3SC-35-3(2)にとって、IAEAの廃止措置に対する安全要求について、計画標準の改定及び安全評価標準の策定における要求事項の整理について説明があった。主なコメント、質疑は次の通りである。

- ・ 今回の検討は網羅性の観点から多くの要求事項を抽出している。今後は今回の検討にも等級別アプローチを用いて重要なものを抽出しておく必要がある。(岡本主査)
- ・ 今回整理した安全要求について、評価実施上の重要点か整理したほうが良い。IAEA文書ではSafety Fundamentalsが最上位であり、重要点の参考になる。またGSR Part4にも原子力全般の安全評価があり参考となる。(岩田委員)
 - 安全評価標準では要求事項の重みづけをしていくことにする。(岡本主査)
- ・ 安全評価自体は実プラントに対する評価を行ったわけであるから、の検討には具体例が必要である。(岡本主査)
- ・ 計画標準は網羅性が重要である。安全は現場を見ながら検討を行う必要がある。(田村委員)
- ・ 学会標準は事業者等により実施された実例をなぞっているものが多い。標準の規定に定める要求事項はよりどころとするもの(今回の場合は、IAEAの安全要求)を中心にすえて検討していくことが重要である。(田中幹事)
- ・ 検討の順番として、計画標準から行ってはどうか。(岡本主査)
 - 2011年の時点で計画標準は、IAEAの要求に適合していることを確認している。今回の検討ではIAEA文書のバージョンアップをもれなく取り込んでいっている。これに基づいて、再度適合性確認を行っていけばよい。
- ・ 福島事故のフィードバックが必要である。事故調の報告書など、別の視点、追加の視点で見ることはないか？
 - 福島の見点も積極的に取り入れるべきである。(小山委員)
 - 深層防護などどこまで廃止措置に取り込めるか分からないが、ある程度福島事故を考慮に入れていることを解説あたりに入れておくことが必要である。(岡本主査)
 - 通常の廃止措置は、福島の見点と直接関係ないことを明示しておく必要がある。(小山委員)
- ・ 計画標準に関しては、R3SC-35-3(1)表2の方針で行くことにしたい。(岡本主査)
- ・ R3SC-35-3(2)の記載について、要求事項と推奨を分けては表にしてはどうか？(立花委員)
 - 冗長になるのでそのような記載していない。要求の程度を下線1重と2重で分けている。(水越氏)
- ・ 今回の検討成果は標準の付属書又は解説に含めておくようにしたい。(岡本主査)
- ・ 安全評価標準の場合、具体的な評価もして、今回の上流側からの評価と合わせてやってみては？(岩田委員)
 - 安全評価については、既存の資料として電中研ハンドブックがある。但し、これはあくまで手法なので、考え方などが入っていない。今回の検討を踏まえて考え方の整備が必要である。(田中幹事)

- ・非放射性の危険性が入っていない。どのように取り入れるか？（田中幹事）
 - 工事安全は実施標準で記載している。安全評価標準に入れる必要はない。（工藤氏）
 - IAEAの要求事項として、非放射性の危険性についても安全評価をすることがある。（水越氏）
 - 適用範囲のところに安全評価の対象範囲をどう定義するかが重要になる。放射線安全を中心にアスベストなど非放射性安全も忘れないことを記載することが必要であろう。（岡本主査）
- ・確率論的評価はどうか。（湊委員）
 - 耐震標準のように廃止措置の進捗に伴って要求が減るようなものとしたいが、頭の体操をやってみなくては分からない。（岡本主査）
- ・廃棄物の処理も廃止措置に入るか。（梶谷委員）
 - 入る。現在認可されている廃止措置計画では、施設から搬出し、埋設事業者へ引き渡すための廃棄体の製作までが廃止措置の範囲であるとしている。（田中幹事）
- ・プロセスの定義（入口、出口）が必要である。（岡本主査）
- ・標準の範囲と他の標準とのリンクを定義し、廃止措置の取り扱いについて適用範囲、もしくは解説に書いておく。（岡本主査）

上記の議論の結果、今後、本検討は以下のように進めることになった。

- ・廃止措置計画標準と安全評価標準は分けて検討し、廃止措置計画標準の検討を先行させる。
- ・計画標準は、網羅性が重要であり、現在の方針で進める。
- ・安全評価標準は、現在抽出している要求事項の中から重要点を絞り、また具体的な評価を行い、これを参考にしつつ検討を進める。

- 今回提示されたIAEAの要求事項整理を精査し、通常炉の廃止措置に反映すべき安全要求事項を委員各位で検討することとする。期間は1ヶ月程度とする。取り纏め様式や実施機関などは後日事務局より送付する。

（5）【報告】日本原子力学会 2016年春の年会 発表について

来る3月26日から東北大学で開催される原子力学会で「廃止措置安全評価の標準化」について5件のシリーズ発表を行う。この概要について、田中幹事からR3SC-35-4により説明があった。

シリーズ発表を行う主たる目的は、廃止措置安全評価について、分科会以外からも広く意見をつのることにある。（発表は、27日（日）の午後の予定）

(6) その他, スケジュール等

- 次回分科会 : 4月26日(火)(予定、場所未定)

以上